



へきけんニュース

ホームページ http://www.hokkyodai.ac.jp/edu_center_remoteplace/
メールアドレス kus-hekiken@j.hokkyodai.ac.jp
☎ 0154-44-3291 FAX 0154-44-3292

令和元年度第1回へき地・小規模校教育推進フォーラム

「へき地・小規模校の教師教育と大学・教育委員会の役割」開催

長崎県と北海道の比較を中心としたへき地教育フォーラム開かれる!!

旭川校へき地校体験実習による学生の教職意欲向上の教育効果も報告!!

1. 佐川正人理事のフォーラム開催挨拶

令和元年8月28日、へき地・小規模校教育推進フォーラム「へき地・小規模校の教師教育と大学・教育委員会の役割」が、北海道教育大学事務局会議室で開催されました。北海道教育大学教員・他大学教員・学校管理職等を中心に77名の方が参加されました。



総合司会:
北海道教育大学函館校 根本直樹センター員

このフォーラムではとりわけ長崎大学の協力を得て、長崎県と北海道の実践と人事制度の比較も行いました。



開催挨拶：北海道教育大学 佐川正人理事

最初に蛇穴学長代理の佐川正人理事の挨拶があり、他大学や他県との比較を行うことは大事であること、教員の資質向上においても各大学と教育委員会が連携して進めることの重要性について挨拶がありました。今回のフォーラムでは大学と教育委員会の両方の立場からへき地教育推進方策が語られていることが重要です。

2. 基調報告「現代におけるへき地・小規模校教育研究の可能性と今後の課題」

玉井康之副学長の基調報告では、現代の子供社会において希薄な人間関係が進行する中、へき地・小規模校が持つ密接な信頼関係を母体にして、コミュニケーションのスキルを高めることは、むしろ新しい人間性や社会性を創る上で先進的な取り組みを進めることができるという問題提起が行われました。

少人数を活かした社会性を伸ばす指導として、馴れ合いにならず異論や反論が出せる関係を意識づけること、役割分担を付与し責任者と責任意識を高めていくこと、民主的な学級運営や司会の方法を伝えていくこと、誰もがリーダーになれるリーダーシップとフォロアーシップの方法を教えていくこと、などの重要性が指摘されました。



基調報告：北海道教育大学 玉井康之副学長

自立的学習活動を引き出す可能性としては、全員発表等の参加型授業・個々の子どもの話す・聞く・議論する・書く・まとめる活動を展開すること、対話的な活動ができる人間関係を意識的に作り変えること、黙読・輪読・各自解答・意見交換・調べ活動・答え合わせ・まとめ・発表、等の自主活動メニューを提起し、自主的に進められるようにすること等の重要性が指摘されました。また教師と子供の合図を共通化して、授業展開の中で自立的・効率的に進めていくこと、集団討論の方法なども教えていくこと等が必要であることが指摘されました。

3. シンポジウム「長崎と北海道のへき地の人材育成の取り組みと可能性」

シンポジウムは、釧路校の境智洋へき地・小規模校教育研究センター員が司会を務め、4つの報告と様々な立場・階層からの熱心な討論が行われました。

司会：
北海道教育大学釧路校
境智洋センター員



(1) 長崎大学の取り組みの報告

長崎大学中村典生副学長の報告では、離島が多い中で長崎大学教育学部では、離島枠の推薦入試も行っており、令和元年度から「離島・地域文化系専攻」を新設したことも報告されました。教員免許更新講習も離島4会場を含めて県内7地区で実施しており、離島に教員を配慮しています。大学の地域教育総合支援センターの活動では、離島にサテライトオフィスを置き、セミナー等を実施しています。また島嶼部ではSDGs プロジェクトを立ち上げ、島のシンポジウムを開くなどして、他地域との比較によるふるさと意識の向上を推進していることが報告されました。



長崎大学副学長 中村 典生氏

(2) 長崎県教育委員会の取り組みの報告

同じく長崎大学長谷川哲朗教授の報告では、県教育センター所長の経験を踏まえて、離島教育に対応した教員研修と人事制度について報告されました。離島の人事異動では島嶼部とそれ以外の地域で地域間異動を3年ごとに進めていること、広域交流人事により全県的な人事による教育水準の維持を図り、教育の機会均等を進めていることが報告されました。また離島教育特別枠採用選考を実施しており、10年連続で勤務できる教員を毎年4名採用しています。さらに研修としては、年間20回ほど出前型研修を実施し、複式講座・遠隔システム授業講座などを実施していることが報告されました。



長崎大学教育学研究科教授 長谷川 哲朗氏

(3) 北海道教育大学旭川校の取り組みの報告

北海道教育大学旭川校の坂井誠亮・芳賀均へき地・小規模校教育研究センター員の報告では、「へき地校体験実習」を希望する学生が半数近くあり、希望者が増えつつあることが報告されました。特にこの「へき地校体験実習」に参加した学生のアンケートでは、「教師になりたい」というモチベーションが高く、教育的な効果が高いというエビデンスが実証されました。

また、へき地校体験実習後には、へき地校へのイメージがよくなり、へき地・小規模校に赴任したいと考える学生も増えていることが実証されました。へき地教育への意欲は、へき地校出身者が市街地出身者よりもより意欲的にへき地校に赴任したいと考える傾向があることも明らかとなりました。この様に教育効果が高いへき地校体験実習を拡張していくことが、今後の課題であることも報告されました。



北海道教育大学旭川校
坂井 誠亮センター員



北海道教育大学旭川校
芳賀 均センター員

(4) 北海道立教育研究所の取り組みの報告

北海道立教育研究所の北村善春所長の報告では、北海道ではへき地・小規模校が半数近くを占め、都市部とへき地では、年齢構成が大きく異なり、年齢の高い管内と低い管内の広域人事異動を進めて均衡化を図っていること、年齢バランスとキャリアに応じた研修の重要性が報告されました。また北海道では、日高・宗谷・根室管内は地域採用枠を設けて、当該管内に定着し地域に根ざした教員の採用を進めていること、東京方面から北海道の教員になる人材を募集するため東京試験会場を設けていることが報告されました。研修では、北海道立教育研究所と大学が連携したへき地教育講座を開設し、双方向遠隔システムを全道的に配信することで、へき地校教員が研修に参加しやすい新しい研修システムを推進していることが報告されました。



北海道立教育研究所所長 北村善春氏

(5) 講評と謝辞

文部科学省金郁夫室長補佐のフォーラムの全体講評は、これまでしっかりと北海道教育大学として、へき地教育実習効果のデータを取得しエビデンスを高めていることや、北海道立教育研究所や長崎大学の取り組みに関して実践的に効果が明らかになっていることへの高い評価がなされました。今後もへき地・小規模校教育の重要性を踏まえるとともに、実践的な教育効果をとらえるエビデンスの取り組みを進めて頂きたいという期待が寄せられました。



講評:文部科学省総合教育政策局
教育人材政策課 金郁夫氏

最後に川前あゆみ副センター長より、へき地の特徴を踏まえたプラス面を伸ばす実践の必要性とその方法の大学教育への取り込みが、教員養成として重要になってきていること、大陸型と島嶼部の違いを踏まえた人事異動の特徴と相互の良さを取り入れること、へき地の研修システムの困難性を解消する研修のあり方の検討など、へき地教育の発展のための行政と大学が連携した研究課題と展望について、まとめと謝辞が述べられました。



閉会挨拶:
北海道教育大学川前あゆみ准教授

(6) へき地・小規模校教育推進フォーラムに参加して

長崎大学副学長（地域教育連携担当）中村典生

玉井康之副学長からご連絡をいただき、長崎大学大学院教育学研究科の長谷川哲朗教授とともに、今回へき地・小規模校教育推進フォーラムのシンポジウムに登壇させていただきました。

北海道と長崎の共通点は様々あります。小規模校の割合が高いこと、へき地等指定学校数の割合が高いこと、複式学級の割合が高いことなどです。そういう意味では課題を共有できることを強く感じました。一方、離島型の長崎と内陸型の北海道では、課題解決の方法



については若干アプローチが違って

来ることも感じました。例えば、教員をどう配置するか、という制度の問題などもそうです。そして北海道、長崎それぞれの取り組みが、お互いの課題解決のヒントとなるだろうことが、今回最も強く感じられたことです。

私にとってはこのような北海道と長崎の課題をともに考える機会を賜ること、本当にありがたく思っています。これを機に更なる両大学の連携協力が進むよう、私も微力ながら尽力する所存です。



長崎大学副学長 中村典生氏

令和元年度第1回へき地・小規模校教育推進フォーラム

会場：北海道教育大学事務局3階第1会議室 日程：令和元年8月28日（水）13：00～17：30

主催：北海道教育大学 協力大学：長崎大学

後援：北海道教育委員会、全国へき地教育研究連盟、北海道へき地・複式教育研究連盟、
長崎県へき地・小規模校教育研究連盟

総合司会 北海道教育大学函館校センター員 根本 直樹

I. 開催挨拶 北海道教育大学理事 佐川 正人

II. 基調報告「現代におけるへき地・小規模校教育研究の可能性と今後の課題」北海道教育大学副学長 玉井 康之

III. シンポジウム「長崎と北海道のへき地の人材育成の取り組みと可能性」

《司会》北海道教育大学釧路校センター員 境 智洋

◇「離島教育に対応した長崎大学地域教育総合支援センターと教員養成・研修の役割」

長崎大学副学長・地域教育総合支援センター長 中村 典生 氏

◇「離島教育に対応した長崎県教員研修と人事制度の取り組み」長崎大学教育学研究科教授 長谷川 哲朗 氏

◇「北海道教育大学の全学的へき地教育の推進と教職意欲向上の取り組み」

北海道教育大学旭川校センター員 坂井 誠亮・芳賀 均

◇「北海道の広大なへき地を対象にした教員の資質向上策と教員研修制度」北海道立教育研究所所長 北村 善春 氏

講評 文部科学省総合教育政策局教育人材政策課 金 郁夫 氏

IV. 閉会挨拶 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター副センター長 川前 あゆみ

【News】令和元年度へき地・小規模校教育研究センター構成員の紹介

令和元年8月9日から、函館校の小松一保先生が、8月20日から、札幌校の萬谷隆一先生が新たにセンター員として就任されました。よろしくお願いたします。

令和元年9月1日現在

職名等	氏名	所属
センター長	玉井 康之	
副センター長	川前 あゆみ	釧路校
センター員	○池田 考司	札幌校
	◎前田 賢次	
	萬谷 隆一	
	○渥美 伸彦	旭川校
	勝本 敦洋	
	小出 高義	
	◎坂井 誠亮	
	芳賀 均	
	水上 丈実	
	○阿部 二郎	函館校
	五十嵐 靖夫	
	石井 洋	
	小松 一保	
	◎根本 直樹	

◎キャンパス代表、○キャンパス副代表

職名等	氏名	所属
センター員	小淵 隆司	釧路校
	榎澤 実	
	○越川 茂樹	
	◎境 智洋	
	戸田 竜也	
	中川 雅仁	
	半澤 礼之	
	森 健一郎	
	◎能條 歩	岩見沢校
へき地教育 アドバイザー	武岡 和廣	札幌校
	田中 和敏	旭川校
	吉田 亨	釧路校
キャンパス長	浅利 祐一	釧路校
担当事務	鹿嶋 利幸	釧路校室
	堀北 昌宏	地域連携推進室
	白川 聡美	釧路校室総務G